

旧本町田小跡地（現ひなた小）にある「希望の森」を生かすことを求める請願

（請願の要旨）

旧本町田小学校跡地にある「希望の森」を中学校統合を理由に壊すことを止めて、「希望の森」生かした跡地利用を検討してください。

（請願の理由）

昨年の9月の教育委員会に私が請願した「町田三中と山崎中の統合予定地を本町田小跡地にすることに見直しを求める請願」が不採択となりました。この時は統合予定地のスポーツ広場が教育委員会の手続きミスで計画通りできないという状況で旧本町田小学校を統合予定地にするという無理な計画が背景にあり、請願しました。小学校であったところを中学校にするということで特に運動場の広さを確保できないという問題がありました。9月の教育委員会では、子どもたちの教育に欠かせない「希望の森」という斜面地を削り運動場を確保するということが何でも統廃合ありきで、冷淡にも請願を不採択にしました。

この事態に対して立ち上がった地元住民の芥川さんが（今回のもう一人の請願者）、再度この問題を取り上げ、今年4月の教育委員会で請願しました。この請願理由をよく読みますと、住民の立場から「希望の森」がどれだけ子どもたちに愛され、本町田小学校の教育に生かされてきたのかが語られ、その存続を求めるものでした。地元住民の一人として、毎日元気に笑顔で登校する子どもたちを見守りながら、あの元気な笑顔の源は「希望の森」という素晴らしい環境生かした教育があったからこそだという訴えは説得力あるものでした。

しかし、この時も教育委員会は、この訴えには耳を貸さず、2校の中学校統合に当たっては運動場の面積を確保できないからとの理由で「希望の森を壊して旧本町田小跡地に統合する」としてまたもや不採択としました。

そこで市民の代表者の集まりである市議会に請願します。議員の皆様は理不尽な統合計画は見直し、計画の再検討をお願いします。旧本町田小学校跡地にある「希望の森」をなくすことを前提とした統合計画は白紙に戻してください。

私は、旧本町田小学校の創立メンバーでもあります。20年前の原小学校、緑小学校、本町田小学校の三校統合に当たって、当時の教職員の多くが敷地が広い緑小学校を統合地に推薦していました。しかし、当時の原小学校区の地域住民や教職員が原小学校を統合地に推薦した理由が「希望の森」を新たな学校づくりに生かしたいということでした。

当時の私は、そのことが良く理解できませんでしたが、原小学校に統合が決まり、本町田小学校としてスタートした時から、このことが良く理解できました。「希望の森が」本町田小学校の教育のあらゆる場面に生かされていったからです。

「希望の森」は、子どもたちの憩いの場でした。森の中は涼しいです。今どきの高温の夏場ではなくてはならない熱中症を避ける場となっています。20分休みや昼休みは多くの子どもたちがこの森をめざし、自然を相手に遊びます。

「希望の森」とその周辺の畑で採れる果物やタケノコは最高でした。ブルーベリーは6年生が採集し、ジャムづくりをしました。ミカンも4年生が採集し、ジャムを作りました。採れたタケノコは給食に提供されました。

「希望の森」の落ち葉で作った腐葉土は、畑の肥料ともなりますが、カブトムシの寝床としても最適でした。毎年、20匹から30匹のカブトムシが誕生し、生活科や理科の学習に生かされました。当時の用務員さんが気にかけてくださりカブトムシを育ててくれました。

団地の中で暮らす子どもたちにとっては、自然環境の充実した「希望の森」はなくてはならないものでした。自由に虫や植物や木登りなどして遊ぶことができたからです。

「子どもにやさしい街づくり条例」を皆様のお力で町田市は制定しましたが、「希望の森」を削って無理やり中学校の統合予定地にするのは、その趣旨に反することではないでしょうか。未来を生きる子どもたちに緑の森を削り、自然を壊してまで二つの中学校を統合する必要があるのでしょうか。今ある広い運動場を持った二つの中学校を廃校にする必然性は本当にあるのでしょうか。

「希望の森」を生かした跡地利用をお願いします。地域住民にとっても愛され、子どもたちにとってもなくてはならない場所です。再度立ち止まって、今回の計画を白紙に戻し、再検討していただくようお願いします。市民から負託された市議会議員のみなさまの良識で教育委員会による強引な計画を改めさせてください。私たちは、子どもたちの未来に責任があります。緑を壊すことだけはやめてください。

請願項目

1, 旧本町田小跡地（現ひなた小）にある「希望の森」を生かした跡地利用を検討してください。